

第58回 Pitch to the Minister 懇談会“HIRAI Pitch” 議事概要

1. 開催日時・出席者等

- 日時：令和元年7月29日(月)16:00～17:00
- 場所：中央合同庁舎 8号館 10階 平井国務大臣室
- Pitch テーマ：日本のデータサイエンスの未来と滋賀大学の挑戦について
- 招へい者：須江雅彦(すえまさひこ)滋賀大学副学長データサイエンス教育担当
竹村彰通(たけむらあきみち) 滋賀大学データサイエンス学部長/
大学院 DS 研究科長/DS 教育研究センター長
- 出席者：平井国務大臣、赤石総括官、別府内閣府審議官、三輪政府CIO(IT)、
三角審議官(IT)、吉田参事官(IT)、平井参事官(IT)、奥田参事官(IT)、
三又局長(知財)、渡邊次長(知財)、佐藤審議官(科技)、中里参事官(宇宙)、
寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

2. 須江氏、竹村氏からの説明

- データは「21 世紀の石油」と言われて久しく、ビジネスにおいて今後競争的優位に立つためには「データ」と「データを活かす技術」の双方が必要となっているが、日本ではデータ分析人材が圧倒的に不足している。
- そこで、滋賀大学においては我が国最高水準のデータサイエンス教育研究拠点を設置し、実践力を備えたデータサイエンティスト養成に向けた取組を行っている。取組においては、企業や自治体とも連携し、実データの分析を通じた問題解決型学習による人材育成を重視している。
- 滋賀大学の取組以前は、日本には海外のように統計学部を有する大学がなかったことにも鑑みれば、今後は高等教育においてデータ分析の高度化を図るための体系的な統計教育を強力に進めるための体制構築が不可欠である。

3. 質疑応答・議論

- データサイエンスはAI戦略にも深く関係しており、また、金融やマーケティングなど個別分野における実装事例がそれぞれ存在していることから、分野横断的なデータ利活用に係る戦略の検討が必要ではないかとの意見があった。
- 統計教育は理工学的な分野との印象もあるが、社会実装を見据えた人材育成を前提に、高等教育での充実を図る必要があるのではないかとの意見があった。
- 統計教育において先進的に取り組んでいる米国ですら今後 10 年間で、さらに 1000 人の統計学に関する大学教員の増加を見込んでいること等も踏まえれば、我が国においても、時間がかかっても着実に進めなければならない取組であること、ただし、今すぐにでも大胆に着手すべきであるとの意見があった。

(了)

(速報のため事後修正の可能性あり)